あぐり通信 Agri News

このページでは、赤井川村で新たに農業を始めたまたは始めようとしている方々を紹介しています。

岩本　繁（いわもとしげる）さん　34歳

昭和46年8月、札幌市に生まれる。市内の高校を卒業後、岩手大学農学部へ。生まれ育った北海道での就職を考え、北海道庁へ入庁。日高地域の農業改良普及員として6年間勤務、その後、農業行政に携わり日高支庁農務課で5年間勤務し、今年3月末、新規就農研修を始めるため道職員を退職し、一家そろって赤井川村へ。家族は妻 典子さん、長男 尚大くん、次男 悠椰くんの4人家族。

岩本さんに突撃インタビュー

Q　農業にチャレンジしようと思ったきっかけは？

A　農業改良普及員や支庁の行政職員として、農業関係の仕事に11年間従事してきましたが、農家出身ではない自分には農業はできないと決めつけている部分がありました。しかし、晴れの日も雨の日も建物の中でパソコンに向かって仕事をしている毎日や、このまま退職まで組織に依存した生き方で過ごすことに疑問を持ち、「太陽の下で体を動かし、自分の足で自分の道を歩みたい。自ら農業をやりたい。」と思い始めました。妻との話し合いでも快く賛成してくれたので、就農をめざして退職することを決断しました。

Q　奥さん（典子さん）にお聞きします。ご主人から農業をやりたいと相談されたときは？

A　今までの生活はすべて夫に頼りきりでした。自分も主人と一緒に汗を流して暮らしていきたいと思っていたので「大賛成」と答えました。

Q　赤井川村に移住することを決めたのは？また、実際に住んでみての印象は？

A　新規就農に関する情報収集をする中で、後志管内には色々な経営形態で多くの新規就農者が入り、定着していることを知りました。正直なところ「赤井川村」という地名は、聞いたことがある程度の知識でしたが、新規就農の受入体制がしっかりしていること、地域の農業は様々な販路で取り組んでいること、自然の中で過ごすことが子供達にも良いと思ったことなどから、赤井川村へ移住することを決めました。

住んでみると、山々に囲まれた環境が「本当に自然の中だなぁ」と感じています。また、「札幌のような都会に隣接してこんなに自然いっぱいの村があったんだ」と驚いています。引越してきて2ヶ月子供達ふたりも小学校や保育所に毎日元気に通っています。

Q　実際研修を開始して？

A　研修農家の二川さんのところに来て約1か月半、二川さんの農作業に厳しく取り組んでいる様子が肌に感じ、大変良い勉強をさせていただいています。農作業は重労働ではありますが、太陽の下、鳥の鳴き声を聞きながらの作業に心地よさも身にしみて感じています。二川さんに指導をいただきながら、勉強として自分なりに野菜の栽培に取組させてもらっています。

Q　どのような農業をこれから目指していますか？

A　自分の作ったものを理解して買ってくれる人に農作物を届けたいと思っています。そこまでたどりつくように、試行錯誤を続けながら進んでいこうと思っています。

Q　受入農家さんからひとこと

A　今までも新規就農研修として赤井川村に来て、途中断念していった人達がいるのも事実。夫婦ふたりで決断したことなので、ふたり力を合わせ、なんとか就農に向け成功してほしいと願っています。

取材を終えて

農業へ転身した理由を尋ねたところ、「なかなか一言では伝えられないですね」とお話され、普及員時代の農家さんとの関わりや公務員時代の思いなど、色々なことをお話いただきました。

取材の最後に、「サラリーマン時代からこの2ヶ月で10kg以上体重が減りました。ベルトの穴4つ分位はやせたかな？」と笑顔で話す姿がとっても充実感に充ち溢れている様子でした。